

十日町市バイオマス活用推進計画 (十日町市バイオマス産業都市構想)



十日町市

平成 28 年 10 月

目 次

1	地域の概要	2
1.1	対象地域の範囲	2
1.2	作成主体	2
1.3	社会的特色	2
1.3.1	歴史・沿革	2
1.3.2	人口	3
1.4	地理的特色	4
1.4.1	位置	4
1.4.2	地形	4
1.4.3	交通体系	5
1.4.4	気候	6
1.4.5	面積	7
1.5	経済的特色	8
1.5.1	産業別人口	8
1.5.2	事業所数	9
1.5.3	農業	9
1.5.4	林業	10
1.5.5	商業	11
1.5.6	工業（製造業）	12
1.6	再生可能エネルギーによる発電への取組	14
2	地域のバイオマス利用の現状と課題	16
2.1	バイオマスの種類別賦存量と利用量	16
2.2	バイオマス活用状況及び課題	18
3	目指すべき将来像と目標	21
3.1	背景と趣旨	21
3.2	目指すべき将来像	21
3.3	達成すべき目標	22
3.3.1	計画期間	22
3.3.2	バイオマス利用目標	22
4	事業化プロジェクト	25
4.1	基本方針	25
4.2	木質燃料の利用拡大プロジェクト	26
4.3	使用済み紙おむつの燃料化プロジェクト	28
4.4	きのこ廃菌床の燃料化と肥料化プロジェクト	30
4.5	廃棄物系バイオガス発電プロジェクト	32
4.6	もみ殻の燃料化と肥料化プロジェクト	34
4.7	廃食用油のバイオディーゼル燃料化拡大プロジェクト	36
4.8	バイオマス以外の再生可能エネルギー	37

5	地域波及効果	38
5.1	経済波及効果.....	38
5.2	新規雇用創出効果	39
5.3	その他の波及効果	39
6	実施体制.....	41
6.1	構想の推進体制	41
6.2	検討状況.....	42
7	フォローアップの方法.....	43
7.1	取組工程.....	43
7.2	進捗管理の指標例	44
7.3	効果の検証	45
7.3.1	取組効果の客観的検証.....	45
7.3.2	中間評価と事後評価.....	46
8	他の地域計画との有機的連携.....	48

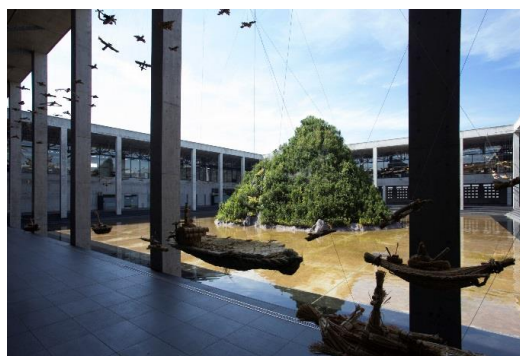
選ばれて 住み継がれるまち とおかまち



日本の原風景 星峠の棚田



雪まつり発祥の地 十日町雪まつり



大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015

1 地域の概要

1.1 対象地域の範囲

新潟県十日町市



図1 十日町市の位置

1.2 作成主体

本構想の作成主体は、新潟県十日町市とします。

1.3 社会的特色

1.3.1 歷史・沿革

十日町市を含む中魚沼・東頸城地方一帯で人類の活動が始まったのは大変古いと見られ、河岸段丘上のあちらこちらで旧石器時代の石器類が出土しています。

特に、笹山遺跡から発掘された火焰型土器・王冠型土器を含む深鉢形土器群は、5,000年ほど前の縄文時代中期に作られたものと推定され、平成27年（2015）現在、新潟県で縄文時代の土器としては唯一の国宝となっております。

十日町市は、明治 21 年（1888）の市町村制施行による「明治の大合併」、昭和 28 年（1953）に制定された町村合併促進法を契機とした「昭和の大合併」など数回の合併を経て、平成 17 年（2005）4 月 1 日に、十日町市、川西町、中里村、松代町、松之山町の 5 市町村の新設合併により、新生「十日町市」が誕生しました。

合併後の十日町市では、新市としての一体感の醸成を図りつつ度重なる災害の経験を踏まえ、持続可能で、かつ多様な地域性を活かしたまちづくりを進めています。

1.3.2 人口

十日町市の人口は、昭和 25 年（1950）の約 104,000 人をピークに減少が進み、平成 22 年（2010）では約 59,000 人となっており、今後も減少傾向は続くものと推計されています。

平成 18 年（2006）に策定した総合計画では、平成 27 年（2015）の人口を、国立社会保障・人口問題研究所の推計値 54,529 人に、定住促進策による加算人口を約 1,000 人見込み 55,500 人としていました。積極的な移住促進や克雪対策、子育て支援等の取組が功を奏し、平成 27 年（2015）8 月末現在で 56,456 人と、目標を約 1,000 人上回っています。

国全体の人口が減少する中、市の人口を維持することは困難な状況ですが、産業や市街地、中山間地域を活性化させ、これまで以上に人口減少を抑制する施策を講じる必要があります。

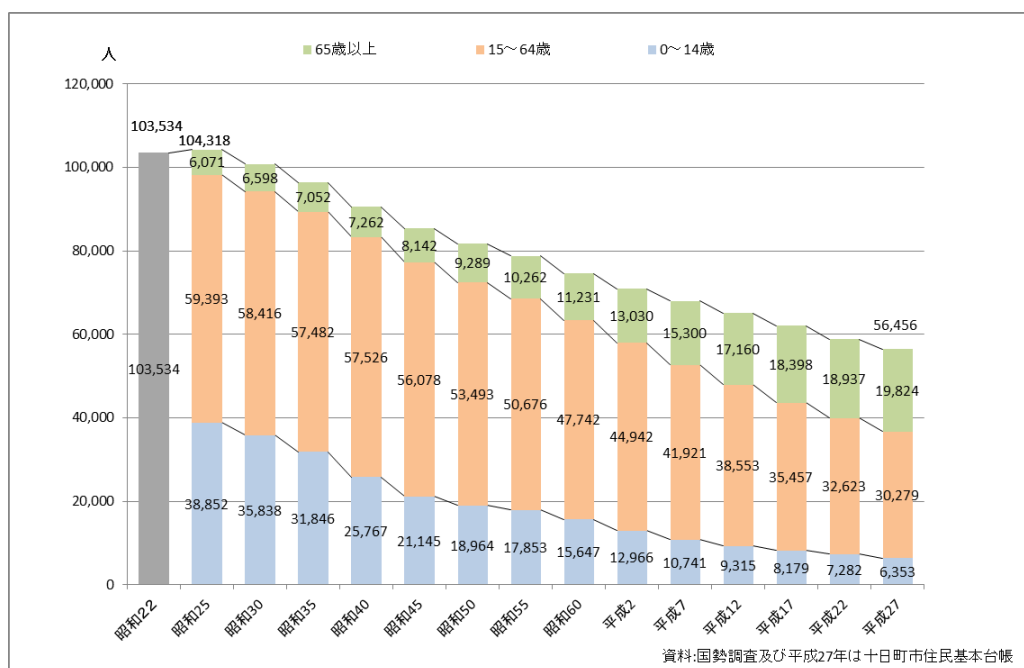


図2 年齢3区分別人口の推移

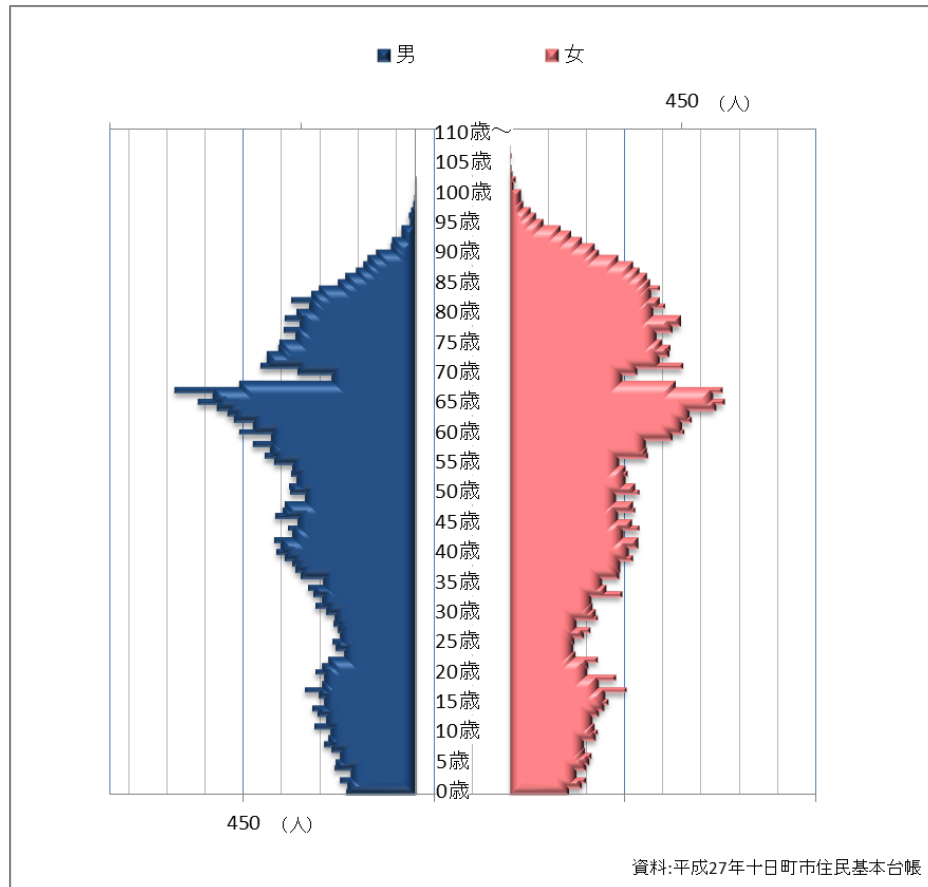


図3 十日町市の年齢人口ピラミッド（平成27年8月末現在）

1.4 地理的特色

1.4.1 位置

十日町市は、新潟県の南部に位置し、東は南魚沼市・湯沢町、北は長岡市・小千谷市・魚沼市、西は柏崎市・上越市、南は津南町・長野県などと接しています。東京からは約200km、新潟市からは約100kmの地点にあります。

国内有数の豪雪地帯であり、毎年の積雪量は2mを超え、年間降水量の約半分が12月から3月に集中しています。また、1年の3分の1が根雪期間となり、冬期間における市民の日常生活、経済活動に大きな影響を及ぼしています。

1.4.2 地形

市の東側には魚沼丘陵、西側には東頸城丘陵の山々が連なっています。

中央部には日本一の大河信濃川が南北に流れ、十日町盆地とともに雄大な河岸段丘が形成されています。

また、西部中山間地域には渋海川が南北に流れ、流域には集落が点在し、棚田などによ

り美しい農山村の景観を呈しています。

最南部は上信越高原国立公園の一角を占め、標高 2,000m 級の山岳地帯となっています。



図 4 十日町市航空写真

1.4.3 交通体系

本市の交通網は、南北には信濃川沿いに国道 117 号と J R 飯山線、渋海川沿いに国道 403 号が走り、東西には北から国道 252 号・253 号・353 号・405 号が走っています。

国道 117 号と信濃川の間を平行して J R 飯山線が走っており、さらに市域の中心部を横断するように、第三セクター鉄道のほくほく線が走っています。J R 飯山線は市内に 6 駅を配し、沿線住民の通勤・通学の足として、また市内への観光誘客としての役割を担っています。

ほくほく線は市内に 4 駅を配し、沿線住民の通勤・通学・通院など市民生活の重要な交通手段として、また、首都圏と十日町市を最短距離で結ぶ鉄道でもあることから、市内への観光誘客の交通機関として重要な役割を担っています。

市内の路線バスは民営バスが近隣市町を広域的に結び、市営バスが周辺集落を縫うように運行されていますが、利用者は年々減少しており、廃止される路線も出てきました。

市では、交通空白地帯を解消するため予約型乗合タクシー（デマンドバス）の運行を行っており、高齢者などの移動手段として利用されています。